

ろうさいの森

Vol. 182 2025年11月号



森ヶ崎緑華園の秋の花 病院長 森田 明夫 撮影

院内コンサートを開催しました

10月3日（金）に当院にて、「院内コンサート」を開催いたしました。「トリトン弦楽四重奏団」（大森室内楽愛好会）の方々と長浜奈津子さん（プロタンゴ歌手）にお越しいただき、タンゴ・ジェラシー、ラ・クンパルシータ、シューベルト：弦楽四重奏曲第13番 ほか、1時間ほど素敵な演奏・歌声をご披露頂きました。



いつつのわふれあい祭りに参加しました

10月19日（日）に大森東地区自治会連合会が主催する「第12回いつつのわふれあい祭り」に参加しました。「無料健康相談」「白衣試着体験」「骨密度測定」「AED体験」のブースを設け「救護所」としても活動しました。また、メインステージではリハビリスタッフによる健康体操「ひだまり体操」の実演も行いました。当日は、およそ170名の方々が当院のブースを訪れ、大いに盛り上がりました。



羽田空港での航空機事故総合訓練に参加しました

10月23日に羽田空港で空港機事故を想定した総合訓練が行われ、各機関から1,026名、車両169台が参加しました。

当院からも大森医師会とともに救助チームが参加し、重症傷病者（赤）エリアで診療を担当しました。

羽田空港にもっとも近い災害拠点病院とし有事への準備を怠らないようにしています。



OTAふれあいフェスタ2025

今年度も大田区主催の「OTAふれあいフェスタ2025」に参加いたします。今回は新たに「AED体験」も実施します。ぜひお越しください。

日時		内容
日 時	11月1日（土）	・無料健康相談 ・白衣試着体験 ・骨密度測定 ・AED体験
	10:00～16:00	
場所		
平和島公園 （太陽のエリア）		

年末の診療について

年末年始休暇については、12月27日から1月4日まで9連休となりますが、**12月29日（月）**は、通常通り診療を行うことといたしましたので、お知らせします。詳細は来月号をご覧ください

ろうさいの森 地域紹介コーナー

東京労災近隣の散歩紹介：森ヶ崎緑華園
病院の裏手400mくらいのところに森ヶ崎緑華園という大田区立の公園があります。季節の花を手入れよく植栽しており、色々な花が咲き果実が実っています。診療の後、バスの待ち時間にでも、すこし散歩してみたいかがでしょう。



第6回ひだまりを開催しました

10月21日（火）、通いの場「ひだまり」を開催しました。新井副院長（泌尿器科部長）解説の「男女ともに悩んで？尿漏れの世界」、リハビリスタッフによる「尿漏れ予防体操」を行いました。

～次回開催日程～

「誤嚥性肺炎にならないための正しい口腔ケア」

日 時：11月18日（火）
15:30～16:30

場 所：3階 大会議室

参加費：無料 お気軽にご参加ください

外来担当医表は裏面へ

独立行政法人労働者健康安全機構東京労災病院
〒143-0013大田区大森南4-13-21 TEL03-3742-7301

発行人 木村 幸司

編集人 饗庭 虹萌

R7.11.1発行

糖尿病・内分泌内科

糖尿病・内分泌内科部長 桑原 公一郎

東京労災病院の糖尿病・内分泌内科は、平成14年に糖尿病内科として開設され、平成18年に「糖尿病・内分泌内科」へ名称変更し、現在に至っています。

当科では、内分泌代謝疾患を幅広く診療しており、それらには、視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺及び関連疾患、副腎及び関連疾患、性腺疾患、多腺性内分泌疾患、肥満症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症などの幅広い疾患が含まれます。

最近では、現代病のひとつに数えられている糖尿病の患者さまが圧倒的に多いためなのか、当科を初めて受診される患者さまの中には、糖尿病以外の疾患の検査や治療を目的として紹介されているのにも関わらず、自分が糖尿病にかかってしまったのではと勘違いされている方が少なからずいらっしゃるようです。

上記のごとく、糖尿病以外の内分泌代謝疾患も幅広く診療していますので、当科に紹介されてもがっかりなさらないようお願い申し上げます。



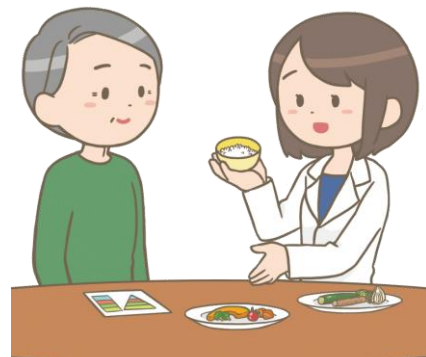
新しい肥満症治療薬について

肥満症とは、体格指数(体重を身長で2回除したもの)が25以上あり、肥満に起因・関連する健康障害(高血圧症、糖尿病などの耐糖能障害、脂質異常症、高尿酸血症、冠動脈疾患、脳梗塞、脂肪肝、月経異常、睡眠時無呼吸症候群、変形性関節症などの運動器疾患、肥満関連腎臓病)をひとつ以上合併している状態を指します。

世界中で肥満症が大問題となっていることを背景に、有効な治療薬の開発が進められて来ています。日本においても、昨年からは新しいタイプの肥満症治療薬(GLP-1受容体作動薬、GIP/GLP-1受容体作動薬)が使えるようになっていきます。

これらは万能ではありませんが、今までの治療方法がまったく効かなかった肥満症の改善に一定の効果が報告されています。肥満症でもないのに、痩身目的の自由診療でも使用されているそうです。期待の新薬ですが、あいにくこれらの薬を保険診療で処方できる医療機関は大田区内でも限られています。

肥満症でお困りの方は当科にご相談ください。
なお、薬物療法を開始する前に管理栄養士の指導に基づく6ヶ月間の食事療法が必要です。



耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長 高柳 博久

耳鼻咽喉科は、耳（慢性中耳炎、難聴など）・鼻（アレルギー性鼻炎、蓄膿症など）・のど（扁桃炎、生体ポリープ、舌炎など）・首回り（リンパ節炎、耳下腺炎、甲状腺炎など）の病気に加えて、めまいや顔面神経麻痺、睡眠時無呼吸症候群など幅広い症状に対応しています。

小さなお子さんからご年配の方まで、さまざまな世代の患者さんを診察しています。

手術は耳（鼓室形成術、鼓膜チューブ留置術など）・

鼻（内視鏡下に副鼻腔手術など）・喉（扁桃摘出術、舌腫瘍切除術など）・首回り（甲状腺腫瘍摘出術、リンパ節摘出術など）の手術、嚥下の手術（＝嚥下機能改善術、誤嚥防止術）など幅広く対応し、年間約200件以上行っています。

進行がんなどの高度な技術を必要とする手術は大学病院、専門病院と連携し対応しております。



嚥下障害について

近年増加し続けている誤嚥性肺炎は、「食べ物や飲み物がうまく飲み込めない」、「むせやすい」といった嚥下障害（＝飲み込みの問題）が原因となっています。

当院では、嚥下障害チームを立ち上げ、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、栄養科が連携して検査や治療（手術、リハビリテーション）を行い、院内患者さんの嚥下障害に取り組んでいます。

これにより、院内での食事中の窒息事故や肺炎の予防に役立ち、そのことが患者さんの安全な食事支援につながっています。

現在は、外来診療においても嚥下機能検査、リハビリテーション指導などを行っており、入院・外来の両面から嚥下障害に対応しています。

